

見ちゃってん、聞いちゃってん

平尾天満宮 (天満天神)

現在は平尾四丁目 平尾八幡宮境内祭祀す

すがたみ

天満天神又の名を容見天神との言い伝えがある御社です。

鎌倉時代には、住吉宮、櫛田宮、宮崎宮と共に肩をならべる程の古い天満宮でした。

平安時代(西暦901年)醍醐天皇の親任を得て右大臣としてお仕えしていた菅原道真公(当時57歳)は、左大臣藤原時平の慚言により、昌泰四年正月二五日俄かに、太宰府権師として、左遷されてしまい、昌泰四年二月京都を出発され、瀬戸内海を航海のあと三月博多袖湊に入港された道真公は、博多の街は如何なるものかと思われ高い丘より眺めるのが、最上と平尾山麓の丘の下に船を寄せられ、左遷の地に第一歩を印されたのが、ここ平尾天満宮の土地でした。

丘の上にあった石に腰かけて博多の街をつくづく眺め、京での右大臣として華やかな日を追想され、今は冤罪に問われる身となり、哀れな我姿(容見)を顧えり見られて万感胸に迫る思いがあったとか、菅原公の胸中察するに余りあるものです。

四十川の岸边に上陸されて陸路太宰府、榎寺に入り居住され、延喜三年(西暦903年)二月二五日榎寺にて五九歳の生涯を終えられました。

その後菅原公死後、藤原時平の言ったことが事実無根と判明し、朝廷より慰霊使を送り太宰府の安楽寺(現在の天満宮)に廟を建て祭られた(西暦905年・平安時代)のが天満宮の起こりです。

野村望東尼 (のむらぼうとうに)

平尾五丁目の山荘公園の前に、野村望東尼の平尾山荘がある。望東尼、俗名はモト。

文政十二年(1829年)、二四歳で福岡藩士野村新三郎貞貫に嫁いで四人の女の子を生んだが、いずれも早逝した。二十七歳の時大隈言道の門人となり和歌を学ぶこととなる。

「向陵集」は、平尾山荘時代の歌集である。女流文学者であったモトは、新三郎が亡くなると明光寺で巨道禪師によって剃髪し、招月望東禪尼となった。

その後、平野国臣などの勤王の志士たちを庇護、結果平尾山荘は風流韻事の間から秘密の集会所となっていた。元治元年、高杉晋作も長州藩(山口県)の保守派に命を狙われるようになり、平尾山荘に潜伏し難を逃れたが、望東尼は志士達を庇護した罪で糸島の姫島に流された。

しかし、高杉晋作の計らいで長州の奇兵隊士が姫島に上陸、望東尼を救出し下関に連れて行った。

薩長(薩摩藩(鹿児島県)と長州藩)同盟が成立すると、その出征を見送るため、望東尼は山口から三田尻に移る。

望東尼は断食をしながら宮市天満宮に戦勝を祈ったが、病にかけ六十二歳で亡くなった。



野村望東尼の胸像

『うき雲のかかるよしや
ものふの
大和心のかずにいりなば』
(望東尼が勤王派の人々と共に
罰せられそうになった時に詠んだ
歌である)



